

岡 病 防 第 14 号
平成 18 年 12 月 19 日

各 関 係 機 関 長 殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予察特殊報第 2 号を下記のとおり発表したので送付します。

平成 18 年度病虫害発生予察特殊報第 2 号

平成 18 年 12 月 19 日
岡 山 県

1. 病虫害名 トマトすすかび病
2. 病原菌 *Pseudocercospora fuligena* (Roldan) Deighton
3. 作物名 トマト
4. 特殊報の内容 岡山県での初発生を確認
5. 初発生確認月日 平成 18 年 10 月 3 日
6. 初発生場所 岡山県真庭市
7. 発生面積 4 a
8. 発生状況

岡山県北部の雨よけハウス栽培トマト（葉かび病耐病性品種）において、トマト葉かび病に類似した葉裏に灰褐色～黒褐色粉状のかびを生じる症状が発生した。

診断の結果、本県初発生の *Pseudocercospora fuligena* (Roldan) Deighton によるトマトすすかび病と同定した。

トマトすすかび病は、平成 8 年に宮崎県で初発生が確認された後、これまでに、1 府 9 県で発生が報告されている（宮崎県、徳島県、京都府、岐阜県、愛知県、茨城県、千葉県、鳥取県、広島県および島根県）。

9. 病 徴

葉裏に不明瞭な淡黄緑色の病斑が現れ、やがて灰褐色粉状のかびを生ずる。病勢の進展とともに、病斑は円形あるいは葉脈に囲まれた不整形となり、灰褐色から黒褐色に変わる（図 1）。葉表には、葉裏よりやや遅れて不明瞭な淡黄褐色の病斑上にかびを生ずるが、葉裏に比べて少ない（図 2）。被害が進むと葉はやや垂れ下がり、上側に軽く巻き、全葉が濃緑褐色のかびでおおわれる。病徴は葉かび病に類似しており、肉眼での判別は困難であるが、顕微鏡下で観察すれば、分生子が細長い形状であることから葉かび病とは容易に区別できる。本病はミニトマトにも発生する。

10. 病原菌について

糸状菌の一種で、不完全菌類に属する。分生子は淡褐色、鞭状または円筒形で、先端は少しくびれ、小型の油胞がある（図3）。大きさは不同（ $13.3 \sim 170.3 \times 2.7 \sim 5.6 \mu\text{m}$ ）で0～15個の隔壁を有する。菌の生育適温は $26 \sim 28 \text{ }^\circ\text{C}$ 、分生子の形成適温は $18 \sim 22 \text{ }^\circ\text{C}$ 、分生子の発芽適温は $26 \text{ }^\circ\text{C}$ 付近である。本菌は被害植物の残さで越冬し、翌年の伝染源となる。

11. 防除対策及び参考事項

- (1) 密植、過繁茂、換気不十分の施設栽培で発病しやすいので、多湿にならないように管理する。
- (2) 発病葉、被害残さは伝染源となるので、圃場外に持ち出し適切に処分する。



図1 トマトすすかび病の病徴（葉裏）



図2 トマトすすかび病の病徴（葉表）



図3 トマトすすかび病菌（分生子）